

## 第三者評価結果報告書

総括	
対象事業所名	アイン金沢文庫保育園
経営主体(法人等)	中央出版株式会社
対象サービス	保育分野
事業所住所	〒236-0042 横浜市金沢区釜利谷東2丁目19-35
設立年月日	平成25年4月1日
評価実施期間	平成28年2月～28年3月
公表年月	平成28年8月
評価機関名	株式会社 <b>R-CORPORATION</b>
評価項目	横浜市版

### 総合評価（事業所の特色や努力、工夫していること、事業者が課題と考えていること等）

#### 【アイン金沢文庫保育園の立地・概要】

アイン金沢文庫保育園は、中央出版株式会社の運営であり、京浜急行線金沢文庫駅から徒歩で7分程度の場所にあります。この辺りは、鎌倉時代中期に北条実時が設けた武家の文庫（図書館）があり歴史が古く、近くに金沢八景があることでも知られる、風情ある名勝です。現在は京浜急行の特急停車駅の「金沢文庫」、「金沢八景」駅を中心にシーサイドラインも走る利便性の良い地であり、駅の名前から日本の歴史が偲ばれます。アイン金沢文庫保育園は、金沢八景の「小泉の夜雨」付近に位置し、バスでは金沢文庫駅から野村住宅行の2つ目の赤井バス停下車1分であり、バス経路から、地域は丘陵が順次、団地として開発されてきた様子が分かります。

アイン金沢文庫保育園は現在、定員は79名の中規模園で、2階建ての柔らかい色合いの園舎が印象的です。園舎内は、0歳児6名、1歳児12名、2歳児13名、3歳児以上は各16名の保育園です。1階は、玄関入って左側に0歳児保育室があり、突き当りに1歳児保育室を設けています。2階は、階段を上り右側に5歳児保育室、4歳児保育室、3歳児保育室を配置し、左側に2歳児保育室となっており、地上と屋上に園庭を設けています。アイン保育園の「アイン」の意味は、1つ目は『ドイツ語の「1」：いちばんの子育てセンター、いちばん愛される園』、2つ目は『「愛+in」：子どもたちに愛情をinする』、3つ目は『アインシュタインの「アイン」：教育を実践して、未来を担う子どもたちの育成』の3つで構成されており、具現化を目指した保育を進め、園のロゴも「アイン」の意味を込めて示されています。アイン金沢文庫保育園はアットホームな雰囲気、子どもたちは園生活を満喫しています。

#### 【アイン金沢文庫保育園の保育の方針】

アイン金沢文庫保育園は、開園時の事業理念である『知・徳・体』の「生きる力」を継続し、新しい事業理念として『遊びと学びは仲良し』を掲げ、保育の質の向上を根幹に、「遊びと学びは仲良しをモットーに」、「学ぶ楽しさをいっぱい感じてもらう保育」を展開しています。保育目標は、「好きな遊びをみつけてお友達と楽しくいっぱい遊べる子ども」、「いろいろなものに興味をもち、意欲的に挑戦する子ども」、「思いやりの心をもった優しい子ども」とし、『自由保育』・『モンテッソーリ教育』・『共育』をコンセプトとして保育を推進しています。特に、「モンテッソーリメソッド」は、イタリアの女医で教育家のマリア・モンテッソーリが創始者であり、大人が教えるのではなく、子どもが自らの力で育って行こうとする「内面の成長」を生かす教育方法で、アイン保育園の保育の柱となっています。教育教材は、中央出版株式会社で製造販売されている、モンテッソーリメソッドの遊具（プルチノ）と、他社のモンテッソーリ教具も活用して保育にあたっています。

#### 【優れている点】

##### 1. モンテッソーリ教育の推進

アイン金沢文庫保育園で展開しているモンテッソーリ教育の特徴は、「自由に個別活動をする」、「子どもの中の自主性を重んじる」、「異年齢保育で活動する」です。「自由に個別活動をする」では集団で同じことをするのはなく、自由に個別活動を行い、自分自身で活動を選び、自分のリズムで、納得のいくまで繰り返し活動しています。「子どもの中の自主性を重んじる」では、子どもの知的好奇心が自主的に表れるよう、「自由な環境」設定を重視して子どもに提供しています。「異年齢保育で活動する」では異年齢混合のクラスの中で、子どもたちがお互いから学び合う機会を大切にしています。アイン金沢文庫保育園では、異年齢保育を中心にしながら年齢保育も併せて取り組んでいます。モンテッソーリメソッドの教育を核とし、整備された環境の中で、子どもたちは達成感、満足感、自信、集中力を高め、生きる素地を身に付けています。

## 2. 本部機能の活用による職員の資質向上の取り組み

アイン金沢文庫保育園を初めとして、中央出版株式会社保育事業本部（以下、法人本部）と系列全園が一貫して、職員の資質向上を最優先課題として保育士のレベルアップに取り組んでいます。法人本部では各保育士の年間目標を設定した目標管理を導入し、年2回、園長面談と、年1回法人本部面談を実施し、年度末には各保育士の達成状況、反省点を確認し、次の課題につなげて質の向上につなげています。さらに、研修・教育の充実を図り、夜間の小研修を年4回実施し、法人本部主催の1日間研修を年2回、日曜日に実施する他、内部研修の充実にも力を入れて研鑽を図り、保育士のステップアップに取り組んでいます。内部研修には非常勤職員も参加し、正規職員と同様に質の向上を目指しています。特に、モンテッソーリメソッドの教育を推進するために、保育士のボトムアップが重要と考え、これら研修の充実と実務上のOJT教育により、保育士は順調に成長しつつあります。

## 3. コンセプトである「共育」の推進

アイン保育園の運営において、「コンセプト」となっている『共育』の語源は、子ども、保護者、地域の方々と保育園を含む法人本部関係者が、互いに助け合い、勉強しながら「共に育っていく」という想いで創られた言葉です。また、子どもは年齢別クラスや異年齢保育を通して様々な子どもたちと共に育ち、保育士も保護者も子どもをサポートしながら共に成長して行きます。『共育』の保育は、年間指導計画の中に随所に取り入れ、実践しています。保護者へは、『共育』の考え方について入園のしおりに明示し、保護者懇談会（5月）で説明を行い、園だよりにも掲載して理解を促しています。園では、朝（7:00～8:30）と夕（16:00以降）は合同保育を行い、大きな家庭、たくさんの兄弟として、上の子・下の子・真ん中の子どもが互いに支え合い、育み、『共育』が実践されています。

### 【更なる改善が求められる点】

#### 1. 更なる地域との交流の推進

アイン金沢文庫保育園の園長は、地元の出身であることから、地域の知人や地域についての知識が功を奏し、園設立3年未滿に係らず、地域との良好な関係がすでに築かれています。保育園は地域の大切な文化施設であり、子育てを中心に地域に貢献するという使命を心得、現在、金沢区の取り組みである「あかちゃんの駅」を実施し、近隣の子育てにも尽力しています。さらに、地域の学校訪問、高齢者施設との連携、さらなる町内会との協調や、地域の方たちが参加できるプログラムの強化等、まだまだ地域に貢献する活動を意識して取り組む意欲を持ち、地域の子育て支援、そして、地域の高齢者との交流強化によりアイン金沢文庫保育園の子どもたちとの良い影響を波及させていくよう、一層の成果が期待されます。

### 評価領域ごとの特記事項

#### 1.人権の尊重

●アイン保育園の事業理念は基本方針に沿い、「遊びと学びは仲良し」であり、園目標は、「好きなあそびをみつけてお友達と楽しくいっぱいあそべる子ども」、「いろいろなものに興味をもち、意欲的に挑戦する子ども」、「思いやりの心をもった優しい子ども」とし、利用者本人を尊重した内容になっています。理念・法人・園目標は、玄関に掲示して常に目にできるようにし、職員に対しては、モンテッソーリ教育（大人が教えるのではなく、子どもが自らの力で育って行こうとする「内面の成長」を生かす教育方法）を根幹に保育を推進する環境を整え、職場内研修を行い、非常勤職員も含めて理解を深めています。今回、第

三者評価を機に、全職員に理念や基本方針について職員会議等で再確認をしました。

●保育課程は、地域の実態、周囲の環境を考慮し、理念、方針と共に、モンテッソーリ教育をベースにし、子どもの育ちの最善の利益を第一に考えて作成しています。保育課程に基づき、年齢ごとに年間指導計画を作成し、月間指導計画を立てて保育を実践しています。

●個人情報の取り扱いや守秘義務については、マニュアルに沿って、定義・目的について具体的に事例を挙げて全職員に説明し、周知しています。実習生にもオリエンテーションで説明し、誓約書を提出してもらっています。個人情報の取り扱いについては、保護者に説明し、特に、肖像権については留意し、同意書もらっています。個人情報が記載されている文書、記録は、施錠できる場所に保管、管理しています。

●新入園児の受け入れの際は、短縮保育（ならし保育）を行い、基本的に1週間を目安に実施し、保護者の事情や子どもの様子に応じて臨機応変に対応するようにしています。0歳、1歳児では、保育士はグループ制を採用しながら、全体で子どもを見守るようにしています。進級児は持ちあがりの担任が担当するよう配慮しています。指導計画は、子どもの自主性・主体性を育み、子どもが主体性を発揮できるような指導計画とし、計画は柔軟性を持たせ、週案で具現化を図るようにし、毎月、ミーティングで月案の反省と見直しを行い、次月に反映しています。

●遊びが一斉活動に偏らないよう、子どもの主体性を尊重し、一人一人が興味・関心を持って遊べるように玩具、教具等を用意し、子どもの発想から遊びが展開できるよう環境を整えています。子どもは、落ちついて遊びに集中しています。ルールのある遊びを取り入れた活動では、ルールを守ることの大切さや、ルールを守って友だちたちと遊ぶ楽しさを知るように取り組んでいます。鬼ごっこや、大縄跳びなど、活動的な遊びも屋上の園庭で行っています。今後、運動遊びを取り入れるよう計画中です。

●保育の基本方針について、保護者に対してクラス懇談会で説明し、「園のしおり」、「パンフレット」に保育方針を記載し、園目標は保護者の目に留まる場所に掲示して内容の理解を促しています。年2回、法人本部による「保育所に関するアンケート」を実施し、行事後もアンケートを行い、保育方針が理解されているかを把握しています。また、園だよりや連絡帳を通して保育方針を伝えています。

●保護者との情報交換では、園生活の様子や活動内容は、幼児はその日の子どもの様子を記載して掲示し、情報を伝えています。個別の内容については、乳児は連絡ノートを活用し、3歳児は必要に応じて連絡ノートで伝え、4歳、5歳児は「モンテッソーリの出席カード」（出席ごとにシールを貼る）のカード裏の連絡記入欄を活用し、必要に応じて記載し、口頭でも伝え、保護者と連携を図っています。

●園生活に関する情報は毎月、園だよりを発行し、月により掲載内容を考慮して情報を伝えています。園内での情報提供は、クラス便りや、クラスのホワイトボード、連絡ノート、出席カードで伝えています。また、ホームページのブログで園の活動内容の写真が見ることができ、自主的な購入も可能としています。フェイスブックでも日常の子ども様子を伝えています。クラス懇談会では、保育内容・目的について、資料を交え、園での様子をわかりやすく伝えています。欠席者には、懇談会の内容を書面にし、資料や口頭で伝えています。

## 2.意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

### 3.サービスマネジメントシステムの確立

●障害児保育のための環境整備では、バリアフリーを備え、オストメイト対応のトイレも設置して環境を整えています。関係機関との連携では、金沢区役所の保健課、横浜市南部地域療育センター、横浜市南部児童相談所と必要に応じて相談・指導を受けられる体制を構築しています。担任は、自主的に学習して情報提供を行い、他の職員との情報共有を図り、園全体で対応できるようにしています。情報は職員間で共有しています。

●アレルギー疾患のある子どもの除去食対応では、かかりつけ医からの指示に従い、保護者と連携を密にして適切に対応しています。全職員に、アレルギー疾患について必要な知識や情報を周知し、職員は把握しています。給食時は、名前、アレルギーを記入したラップ、専用トレイを使用し、園長、栄養士、担任保育士が確認し、誤食がないよう徹底しています。除去食のおかわりは誤食事故防止策として提供していません。

●文化が異なる子どもへの対応については、文化や生活習慣、考え方の違いを尊重し、モンテッソーリ教具を通して積極的に文化教育として取り組み、地球儀、世界地図パズル、国旗の積み木等でその国の場所等を知らせ、自然に身近に様々な文化に触れられる環境作りをしています。お正月には、クイズで「あけましておめでとう」を現地語で挨拶したり、外国の料理なども紹介し、文化や生活習慣の違いを自然に理解できるよう心がけています。外国籍に係る保護者へは、英語が話せる職員が在籍しているので、英語対応ができるようにしています。

●保護者からの苦情などに関して、対応について園のしおりに記載し、第三者委員を明示し、園内にも貼り出しています。また、運営適正化委員会等の他機関の苦情解決窓口も紹介しています。保護者から要望や苦情を出しやすいよう、玄関に意見箱を設置し、行事後には保護者アンケートを行い、年2回、法人本部による全体アンケートも実施しています。法人保育事業本部も利用者の意見や要望を聞く窓口を設けています。園長、主任は日頃から保護者と信頼関係を深めるようコミュニケーションに努め、相談や要望が言いやすい環境作りに配慮し、個別面談も随時、受け入れています。子どもに対しては、日常の様子を把握し、態度や表情から意向を汲み取るようにしています。

●健康管理では、健康管理マニュアルに基づき、内科健診（年2回）、歯科健診、尿検査、蟯虫検査、視聴覚検査を実施しています。毎朝、視診を行い、子どもの健康状態を確認しています。乳児は連絡ノートを活用し、口頭の確認も行います。既往症、予防接種の状況は健康台帳に記載し、職員に周知を図り、緊急時に備えています。園では、子どもが保育中に37.5度以上の熱が出た場合は、保護者に一報入れるようにしています。歯磨きについては、1歳の誕生日から歯ブラシを持たせるようにし、保育士が仕上げ磨きをしています。年に一度、歯科医による歯磨き指導を受け、適切な健康管理に努めています。

●外部からの侵入に対して、定期的に不審者を想定した防犯訓練を実施しています。園の玄関は電子ロックになっており、午睡時は窓や出入り口を施錠しています。また、警備会社に委託契約をして緊急時対応を万全にしています。不審者情報は金沢区役所から入手しています。金沢警察から、スクールサポーターが巡回し、月1回、情報提供を受け、不審者対策訓練にも協力してもらっています。

### 4.地域との交流・連携

●地域の子育て支援サービスのニーズを把握する取り組みでは、釜利谷地区地域子育て連絡会（金沢区の保健師が中心となり、育児サークル、学童保育等との意見交換会）、関係機関や他施設との検討会・研究会に参加し、地域の子育て情報を把握しています。また、区の子育て支援事業（いきいきフェスタ、スポーツフェスティバルなど）に参加し、講習、研修会に協力し、情報・ニーズを

	<p>収集しています。育児相談では園見学者から相談に応じ、要望があった場合は、都合に合わせて柔軟に個別対応をしています。</p> <p>●地域住民に対する園の情報提供については、育児相談があることを園見学者に周知し、入園に関する情報も提供しています。育児支援のお知らせや保育園情報は、金沢区子育て情報サイト、広報よこはま金沢区版に詳細に掲載され、分かりやすく情報が提供されています。</p> <p>●相談内容による関係機関との連携では、地域の団体のリストを整備し、関係機関（金沢区役所福祉課、区の保健師、横浜市南部地域療育センター、横浜市南部児童相談所、警察、消防署、嘱託医等）とは密に連携を図り、担当は園長または主任としています。</p> <p>●地域への園の理解促進のための取り組みとして、行事（七夕、夏祭り）に地域の方々を招き、園の取り組みや子どもの様子を見てもらう機会を設け、参加者にはおやつを試食を兼ねた軽食をふるまっています。また、幼保小連絡会の連携、町内会、小学校、サービス施設との交流を図り、小学校の体育館を借用し、運動会を行い、公園を利用した際はゴミ拾いをする等、地域への働きかけを行っています。さらに、地域での買い物や散歩の道中では地域の方に積極的に挨拶を行い、クリスマスにはカードを配る等、親しく交流しています。さらに、区の子育て支援事業の参加を通して、広域での友好関係が築けるよう努めています。</p> <p>●ボランティア、実習生の受け入れでは、マニュアルにより事前オリエンテーションを行い、受け入れおよび育成担当者は主任とし、保育方針、心得、留意事項の理解を促しています。受け入れにあたっては、職員の共通認識を行い、子ども・保護者に知らせています。</p>
<p>5. 運営上の透明性の確保と継続性</p>	<p>●職員の守るべき規範は、「運営マニュアル」に明文化され、職員に周知しています。経営、運営状況は、法人のホームページで公開されており、事業計画・事業報告については要求に応じて開示しています。法人の園長会、金沢区の園長会議などで収集したコンプライアンス事例を題材に研修を行い、職員は職員会議やミーティングで守るべき規範について再確認し、改善の指針にしています。</p> <p>●環境整備では、モンテッソーリの環境配慮の考え方を明文化し、リサイクルや分別では、ゴミ分別は子どもたちと共に実施し、ゴミは産業廃棄業者を利用しています。省エネ対策としては、節電や、裏紙再利用、冷暖房の設定温度に注意を促し、廃材は保育で活用し、実践しています。緑化推進については、グリーンカーテンを育て、植物の栽培を楽しみながら緑化を進めています。アイン金沢文庫保育園は、よこはまECO保育所の指定を受けています。</p>
<p>6. 職員の資質向上の促進</p>	<p>●人材の確保については、法人本部で必要な人材の補充を逐次実施しています。人材育成については、人材育成計画を策定し、系列全園で実施しています。年2回、面談シートに沿って園長との面談を行い、年1回は法人保育事業本部との面談を実施しています。正規職員は人材育成制度があり、各職位（コース、管理者、専門職等）の年間目標を設定し、計画を立案して年度末には達成状況や反省を確認し、資質向上を図っています。</p> <p>●非常勤職員の配置や業務内容については、必ず、正規職員と非常勤職員の組み合わせとし、毎月、非常勤職員のミーティングを設け、併せて教育も行い、必要な知識と情報を提供し、業務の変更点も確認しています。また、研修報告書を確認して正規職員と共有化を図り、資質向上を目指しています。園長は、非常勤職員から要望や意見を聞き、コミュニケーションを図り、園の円滑な業</p>

務につなげています。

●園では人事考課制度に沿って、目標を決め、「保育士の自己評価」を行っています。年間指導計画に沿って、保育日誌、実践記録からも自己評価を行い、自己評価チェックを活用して1年間を振り返り、翌月・翌年の保育につなげています。職員は、保育の柱であるモンテッソーリ教育について社内外の専門家から手法を学び、系列他園の事例を検討して、質の向上に取り組んでいます。